

アマチュア無線運用シリーズ

シヤック構築 ハンドブック

機能的で美しいシヤック作りのためのノウハウを解説

JHDL 小原 裕一郎 [著]



ご購入はこちら。

<http://shop.cqpub.co.jp/hanbai/books/15/15811.htm>

見本

CQ出版社

機能的シャック・ スタイル集

「百聞は一見に如かず」ということわざのとおり、まずは本題に入る前に国内外の素晴らしいシャックの例をいくつかご紹介をしましょう。

ここでは無線のために特別にしつらえた部屋に、数多くの機器を所狭しと配置した本格的なシャックから、書斎の一角に無線のためのスペースを設けて、コンパクトながらセンス良く構築されたシャックなど、大小さまざまなパターンを集めてみました。どれをとっても筆者が推奨する「機能的で美しいシャック」を実現しているものばかりですから、この中からご自分の環境に合った形でマネをしたり、いいところ取りをしたり、今後のシャック構築の参考にさせていただければ幸いです。



見本

第1章

シャック構築前の青写真

ひとことでシャック構築といっても、これから新たに開局するケースから、長年運用をしていてリニューアルを兼ねて再構築をするケースまで、人によってスタートラインや規模はさまざまです。とはいえ、どのようなシチュエーションでも実作業に入る前の段取りはたいへん重要で、ここを軽視したり割愛してしまうと、完成度がいま一つだったり、あとで不都合が生じて後悔することになります。そこでここでは、シャック構築の前に抑えておかなければならない、いくつかのポイントについて解説します。



1-1 機能的で美しいシャックのすすめ

機器が増えることを想定する

筆者が考える「機能的で美しいシャック」とは、無線機の前に座ったときにすべての操作がしやすく、誰に見せても恥ずかしくない、整然としたセンスの良いシャックを指します。

では、具体的にはどのようなことなのか、順を追って説明していきましょう。

無線はライセンスやコールサインを取得して、無線機やアンテナを買ったらすぐに電波を出せるというわけではありません。

例えば、DC電源タイプの無線機ならば安定化電源を用意したり、無線機とアンテナを同軸ケーブルで接続したり、POWER & SWRメータやアンテナ・アナライザを使ってアンテナのマッチングを取ったり、電波を出す前にさまざまな準備を

する必要があります。この際に使った周辺機器は、いつも使うかどうかは別にしてシャックのどこかに置くことになりますが、時間を重ねるにつれ、



写真1-1 長年無線をやっていると、このように機器が増えてく

見本

図1-1 多くの海外局が利用しているQRZ.COMのページ



少しずつ無線機や周辺機器が増えていき、いずれシャックはさまざまな機器で埋め尽くされてしまいます(写真1-1)。

すると、当初はスムーズにできていた無線機いったんの操作も、手元にある機器を一旦どかしてからでないと操作ができなくなるなど、操作に支障をきたすようになってきます。

影響はそれだけではなく、多くの機器が折り重なるように置かれていたり、コード類がむき出しで、こんがらがっていたりすると、見た目もたいへん悪くなるため、とても他人に見せる気にはならないでしょう。

ヒントはQRZ.COMにある

筆者がQSO中によく利用している「QRZ.COM (<http://www.qrz.com/>)」(図1-1)では、世界中のさまざまな局のシャックを見ることができます

が、とりわけ海外の局はインテリアを含め、整然としたセンスの良いシャック作りをしている傾向があります。このようなシャックをよく見てみると、やはり無線機は操作をしやすい場所へ配置してあり、デスク上に周辺機器を乱雑に置いていないため、とても機能的で洗練された印象を受けます。筆者がシャック構築に力を入れ始めたきっかけの一つは、QRZ.COMに掲載されているセンスの良いシャックを見て刺激を受けたからで、それ以来、QRZ.COMで世界中の人から見られても恥ずかしくないオリジナルのシャック・スタイルを目指して模索を続けてきました。

多くのデバイスがデジタル化され、インターネットを介したコミュニケーションがポピュラーになっている現在は、QRZ.COMのようなWebサイトを有効利用することで、相手局に自分が使っているリグやアンテナをビジュアルで伝えることができるため、言葉よりも正確に情報伝達ができ、話が盛り上がるきっかけにもなります。実際、筆者はQSO中にQRZ.COMを見た相手局から「素敵なシャックですね」と言われたことが何度ありますが、お世辞半分としても嬉しいものですし、もっとセンスの良いシャックにしようという意欲も湧いてきます。

機能的に構築することの意義

話は少し戻りますが、冒頭に出てきた「機能的」という点について、もう少し掘り下げていくことにしましょう。通常、無線機は事務用デスクかテーブルを利用して設置しますが、これらは天板の高さが70cm前後のものが大半です。実は、ここへ無線機を直じかに置いてしまうと、操作パネルの位置は大型の固定機でも目線よりかなり下したになっ

見本



写真1-2 デスク上にリグを直置きすると上からのぞき込む形になる

しまい、若干、上からのぞき込んで操作する形になります(写真1-2)。この状態で長時間運用していると疲れてしまううえ、アナログ式のSメータを採用している無線機では角度によって針の位置を正確に読めないことがあり、シグナル・レポートの交換にも支障が出る可能性があります。

また、無線機の台数が増えてくると仕方なく何段も積み重ねて置いてしまいがちですが、この方法では上のほうにある無線機は目線より上にくるため見づらくなり、ダイヤルやツマミの操作も腕を目いっぱい伸ばして行うことになるため、むしろ直置きでのぞき込む形より操作がやりにくくなります。しかも、無線機を何段も積み重ねるということは、下の無線機には上の無線機の重みももろに加わるため、下手をすると天板が凹んだり、傷ついたりすることがあるうえ、風通しが悪くなるため放熱性にも悪影響を及ぼしてしまいます。何台もの無線機が積み重なっているようすは、精悍で一见すると見栄えは良いのですが、あまりオススメできる設置方法ではありません。

一方で無線機や周辺機器が増えてくると、それに伴って機器同士を接続するためのコード類も増

えてきます。これを無造作に放置しておくと、機器間で干渉が発生して誤動作をしたり、スプリアスが発生してインターフェアの原因になるなど、思いもよらない悪影響が出てきます。

もちろん、前述のとおり目に見える場所にコード類が散乱していると、とても見栄えが悪くなってしまいます。

とりわけ、機器間の干渉やインターフェアが発生した場合は、原因箇所の切り分けをするためにコードを1本ずつたどっていかなければならず、これには大変なエネルギーが必要になります。細かいことですが、このような事態に陥らないためにも、シャック構築時にはコードの取り回し方やまとめ方に注意を払う必要があります。ここをきちんと処理しておけば、前述のような不具合を避けられるばかりか、機器の移動や入れ替えの際も楽に作業を進められるため、面倒がらずに実践することをオススメします。

まとめ

このように、機能的で美しいシャックを構築するということは、結果的に運用中のミスやトラブルを未然に防ぐ効果があり、誰に見せても恥ずかしくない整然とした環境で運用していれば自然と清々しい気持ちになるため、無線に対するモチベーション・アップにも繋がります。

何事も最初が肝心といいますが、無線の場合は最初に構築するシャックの良し悪しが、その後のハムライフが充実したものになり、一生の趣味として継続できるかどうかの分岐点になると筆者は考えています。その意味でも、ぜひ本書を参考にして「機能的で美しいシャック」の構築にトライしてみてください。

見本



1-2 無線機とPCはセットで考える

最近の無線局運用ではパソコン(以下、PC)は切っても切れない存在になっています。例えば、多くの方が、「Turbo HAMLOG」などのログ・ソフトを使っているほか、世界最大のコールサイン・データベースとして有名な「QRZ.COM」、リアルタイムでどのような局がオン・エアしているのかわかる「クラスタ(総称)」など、現在は無線機とPCを併用して運用するのが標準的なスタイルとなっています。

では、ここで前述の「Turbo HAMLOG」、「QRZ.COM」、「クラスタ(総称)」とは、どのようなものなのか簡単に触れておきましょう。

Turbo HAMLOG for Windows

JG1MOU 浜田氏が開発した「Turbo HAMLOG」は、国内の数多くの局(数万局レベル)が利用しているWindows PC用のログ・ソフト(図1-2)で、もちろん筆者もユーザーの一人です。

このソフトを起動して入力ウィンドウから相手局のコールサインを入力すると、日付と時刻が自動挿入され、さらにユーザーリストに登録してある局ならば氏名、QTH、JCCやJCGコード、GL(グリッドロケータ)、自己紹介文などが瞬時に表示されます。QSO中は何かと忙しいものですが、このソフトを使えば最小限の入力で多くの情報を記録することができるため、日常のQSOはもちろん、コンテストではたいへん威力を発揮してくれます。このほか、データ検索、wkd/cfm管理、QSLカード印刷、リグ・コントロール、電子QSLなど豊富な機能を備えており、フリーソフトでありな

図1-2 日本で人気の高いログ・ソフトのTurbo HAMLOG



がら、ログ入力からQSLカード管理までカバーする至れり尽くせりのソフトといえます。

QRZ.COM

QRZ.COMは、任意登録ながら世界中の多くの局が利用している国際的なコールサイン・データベースです。本になっているコールブックと違って、Webサイトと同様に写真や動画なども掲載できるため、多くの情報を視覚的に伝達できるメリットがあります。また、本人が必要に応じて更新できるため、まるで無線版のWebサイトやブログを運営している感覚で楽しむことができます。

メニューは、Biography(自己紹介)、Detail(QTH、マップ、GL、ライセンス、QSL交換方法など無線局の基礎情報)、Logbook(QSOログ)の三つから構成されています。とりわけ、Biographyは自由に記載できることから、無線機やアンテナの紹介をはじめ、クルマやペットなどプライベートなことまで紹介されていることがあるため、ここを見るだけで相手局の設備や人となり**がわかり**

見本

図1-3 筆者がQRZ.COMに掲載してあるBiography(一部抜粋)



QSOをする際はとても参考になります(図1-3)。

クラスタ(総称)

クラスタとは、オン・エアしている局のコールサイン、周波数、運用モードなどがリアルタイムでわかる掲示板のようなものです。国内局の情報は「J-クラスタ(<http://qrz.jp/>)」(図1-4)、DX局の情報は「DXSCAPE(<http://www.dxscape.com/>)」(図1-5)を利用するのが一般的です。

インターネットがなかった時代は、オン・エアしている局を探すために長時間VFOを回し続けなければなりませんでした。最近ではクラスタがあるおかげで効率的に相手局を探ることができる

図1-4 J-クラスタの情報画面。刻々と情報がアップされる


[北東鹿沖]
書き込み | 削除

1分19秒 で更新 停止

最新 25 最新 100 最新 500

[HF ALL] 最新オンエア情報 50局リスト
 スマホ用アプリ | ドネーションのお願い | 非会員の認証登録

JST	運用局	周波数	運用地	MODE	コメント	リポータ
2015/08/12 14:32	8N9IMIZU/9 移動運用	7,082.0	2811 富山県射水市	SSB 398km	射水市合併10周年記念 出原さん	JL4OND @3111
2015/08/12 14:28	JF8BRH/8 移動運用	7,060.0	0103 北海道小樽市	SSB 48km	LA77朝里だむ 地酒対象	JA8VIY @010108
2015/08/12 14:26	JO1LVZJ/D1 移動運用	18,075.0	10007A 東京都小笠原支庁小笠原村	CW 1281km		JA4GCF @3301
2015/08/12 14:26	JG3LDD/3 移動運用	7,010.5	2310 滋賀県野洲市	CW 570km	瀬沼-1琵琶湖	JF6TEU @0611
2015/08/12 14:24	JA7BVA/8	10,128.0	01011B 北海道有珠郡壮瞥町	CW 856km	yu135	JG2NUD @2011
2015/08/12 14:02	8J3UMI/3 移動運用	10,128.0	2213 京都府京丹後市	CW 349km	海の京都博	JA0CMB @0827
2015/08/12 13:57	8J3KGR 設置場所	14,047.0	27001A 兵庫県赤穂郡上郡町	CW	上郡町合併60周年記念局 短時間	JH3HGI @27001A
2015/08/12 13:44	JA7EGT/7 移動運用	7,073.0	0615 宮城県大崎市	SSB 48km	瀬沼-33切伏沼	JF6TEU @0611
2015/08/12 13:43	8J3KGR 設置場所	24,908.0	27001A 兵庫県赤穂郡上郡町	CW	上郡町合併60周年記念局 短時間	JH3HGI @27001A
2015/08/12 13:40	JA7BVA/8	10,126.0	0133 北海道伊達市	CW 297km	YU133	JJ7GCL @0401
2015/08/12 13:25	JH1ECN/1 移動運用	7,056.0	1226 千葉県富津市	SSB 489km	湯-2558 MAZA	JG3TGI @2724
2015/08/12 13:17	8J1ISM 設置場所	10,126.9	1238 千葉県いすみ市	CW 10km	いすみ市制10周年記念特別局	JH1SOD @12011

見本

図1-5 DXSCAPEの情報画面。さすがに国際色豊かだ

The screenshot displays the DXSCAPE software interface, which is used for monitoring DX stations. It is divided into two main panes: [JA] (Japan) and [WW] (World). Each pane contains a list of stations with columns for call sign, frequency, power, and location. The [JA] pane lists numerous Japanese stations, including YP8L, YL2BJ, and Y3NSP. The [WW] pane lists international stations from various countries, such as R85CM, OY501ARU, and JA1HGX. The interface also includes search filters, a refresh button, and a status bar at the bottom.

ようになりました。ただ、利用している局が多いため、ひとたび情報がアップされるとDX局の場合はすさまじいパイルアップになりがちです。このため、より早くDX局を見つけて楽にQSOをしたいならば、クラスタだけに頼らず、通常のワッチと併用することをオススメします。

PCの使い勝手も考慮する

現在、筆者のシャックには大型のHF機が3台、中型のオールバンド機が1台、モバイル機が2台、合計6台の無線機があります。このうちメインで使用しているのは大型のHF機2台で、これらをシャックの中心に据える形でほかの無線機や周辺機器を配置してあります。PCやインターネットが存在

しない時代ならば、これでシャック構築はほぼ完了ですが、前節でも述べたとおり、現在の無線運用ではPCを抜きにして考えることはできません。したがって、これからシャック構築をする場合は、無線機とPCの両方の使い勝手を意識しながらスペースや配置を決めていく必要があります。

では、PCはどのような場所に配置したら使いやすいのでしょうか？ まず、デスクトップPCの場合は、モニタはメインで使っている無線機のすぐ上、そしてキーボードやマウスは無線機の正面手前に配置するのが理想的な配置といえます。こうすることで視線や手の移動が少なくて済み、スムーズな運用が可能となるからです。なお、本体は仮に大きなタワー・タイプであつても足元



写真1-3 モニタを自由な位置に配置できるモニター・アーム

置いてしまえば邪魔になることはないため、あまり気にする必要はないでしょう。

ただ、モニターを無線機の上に直に置くのは不安定になるうえ、下手をすると無線機にダメージを与えかねないため、あまりオススメはできません。このような問題を解決してくれるのが、最近流行りのモニター・アームです(写真1-3)。

詳細については第4章で解説しますが、これを使えば無線機の上の最適な場所にモニターを配置す

ることができるため、とても便利なアイテムといえます。

次にノートPCの場合は、その形状から必然的にメインで使っている無線機の左右どちらかの手前に配置することになります。一般的にはコンパクトさがウリのノートPCですが、シャックでは無線機がデスクの中央に鎮座していることが多いため、奥行きが一定以上(最低でも60cm以上)あるデスクでないと、画面が近すぎて見にくくなるばかりか、手元が手狭になって操作がしづらくなります。したがって、手元のスペースは十分に確保しておく必要があります。

このように、最近のシャックでは無線機の操作性を犠牲にすることなく、PCの使い勝手にも配慮しなければならないため、あらかじめ無線機プラスアルファのスペースを確保しておくことはもちろん、使用するPCのタイプに応じて無線機や周辺機器の配置を工夫する必要があります。



1-3 スペースや配置の確認

運用スタイルをイメージする

無線という趣味に興味を持ち、一生懸命、勉強をしてハマったからには、いずれは広い敷地にタワーを建てて、広々としたシャックで思う存分、無線を楽しんでみたいといった憧れを持っている方は少なくないでしょう。しかし、それを実践できるのはごく一部の限られた方で、多くの方は住宅事情や費用的な制約がある中で、何とかシャック・スペースを確保して運用しているのが実情ではないでしょうか。

とりわけ、新規に開局しようとする場合や長い

QRTを経てカムバックする場合に問題となるのは、新たにシャック・スペースをどのように確保するかということです。それまでは無線のことをまったく意識しない形で家を選び、家具などを配置して生活していたわけですから、それも無理のない話です。筆者も約30年間のQRTを経て再開局を果たしたカムバック・ハマですが、当初はリビングルームの片隅にデスク一つ分のスペースを何とか確保して運用を始めました(写真1-4)。しかし、リビングルームでピーピー、ガーガーという音を出していれば家族から冷たい視線を浴びてしまいますし、当初思っていた以上に熱が

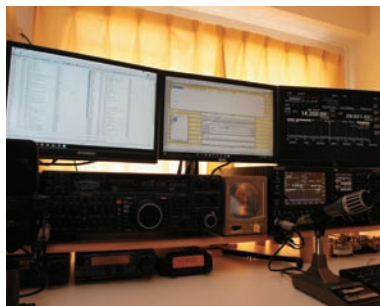
見本

ISBN978-4-7898-1581-9

C3055 ¥2400E

CQ出版社

定価：本体2,400円（税別）



アマチュア無線運用シリーズ

シャック構築ハンドブック

機能的で美しいシャック作りのためのノウハウを解説

見本